

# 気軽に 無理なく 楽しく 自由に 子育てサロンに取り組もう

## ステップ ① サロンについて話し合しましょう

- まず、定例会でサロンについて、みんなで意見を出し合う
- どんなサロンにしたいのか、何が必要なのかを考えてみる

### ポイント 1

#### 仲間を集って、子育て中の親子が集う場所に行ってみましょう

例) 児童館、公民館(親子遊びの講座)、保健センター、保育所(園)、社会福祉協議会などが開催する子育てボランティア講座 etc



### ポイント 2

#### 地域の専門家にも協力してもらおう

例) 社会福祉協議会、保健師、看護師、保育士、社会教育主事 etc



## ステップ ② 会場を探しましょう

- 子どもが遊ぶのに安全な環境、無理なく通える範囲、無料または定額で使用できる

#### 公的な集会施設

たとえば…公民館、福祉センター、町民センター、  
町内会館・自治会館、女性センター

#### 身近な施設

たとえば…児童館、保健センター、幼稚園、保育所(園)、  
商店街の空き店舗、神社・寺院

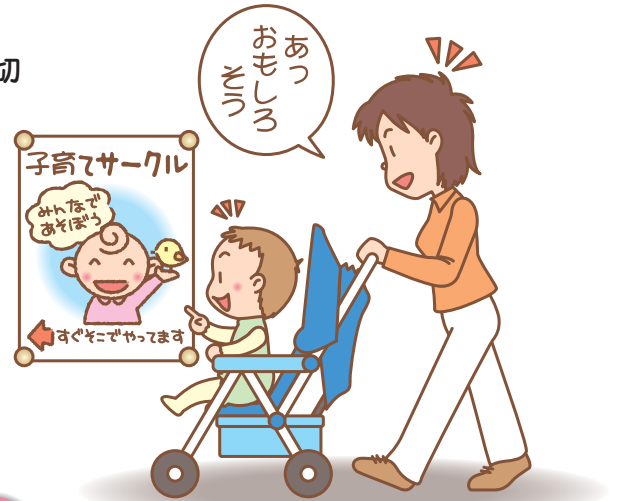


## ステップ 3 参加を呼びかけましょう

- 誰でも気軽に受け入れてくれるような、明るい雰囲気づくりが大切

### \*呼びかけの方法例\*

- ◆役所や保健センター、児童館、保育所(園)、公民館などの掲示板、市町村の広報紙や新聞折り込みなどの地域情報紙
- ◆町内会、自治会の掲示板や回覧板
- ◆郵便局や銀行、スーパーの掲示板
- ◆保健師などによる口コミ
- ◆ホームページや電子メールの活用



## ステップ 4 ルールを決めておきましょう

- 複数の人たちが集まる集団活動です、皆で話しあいながらルールを決める
- 運営の担い手同士や参加者がひとつずつ話し合っ決めていく

- ◆子育てサロンの名称 ◆おおよその子どもの年齢・参加者数 ◆活動日 ◆活動時間 ◆活動内容 ◆参加費の有無
- ◆担い手と参加者の役割分担 ◆おやつの有無

## ステップ 5 こんなことに気をつけましょう



- 緊急連絡先の管理方法
- ボランティア活動保険・サロン保険に加入(地元の社会福祉協議会が窓口)
- サロンで知り得た個人情報の取り扱いに注意する
- サロン活動は、担い手や参加者にとって、自然体で続けられることが必要、スタッフなどを当番制にしたり、運営の担い手や参加者の中で、できる人ができることを担う工夫をする
- 他のサロン活動を見学したり、情報交換をする、活動の振り返りをする

## ステップ 6 困ったときは相談しましょう

- 何か困ったことがあったら、自分たちだけで抱え込まずに、社会福祉協議会や関係機関に相談する

### 参加した親の声

- ◆たくさんの仲間ができた
- ◆ほっと一息つける時間が持てた
- ◆子育ての不安がなくなった
- ◆気持ちに余裕ができた

### 子どもの様子

- ◆落ち着きのない子どもの情緒が安定した
- ◆おもちゃを友達に譲れるようになった
- ◆遊びのルールがわかってきた
- ◆親から離れて遊べるようになった

無理なく 楽しく 話してい 笑い いっしょに 過ごす

# ふああい いさいき サロンに 取り組もう

## ステップ ① サロンについて話し合しましょう

- まず、定例会で地域の中で閉じこもりがちな高齢者について、話し合う
- どんなサロンにしたいのか、何が必要なのかを考えてみる
- 「こんなサロンにしたい」と思ったら、社会福祉協議会に相談する
- サロンの名前を考える  
(たとえば…なかよし会/お茶とおしゃべりの会/十日会[毎月10日に開催]/やすらぎ会/〇〇井戸端会議)

### ポイント

#### 地域の専門家にも協力してもらおう

例) 社会福祉協議会、保健師、在宅介護支援センター、ケアマネージャー etc



## ステップ ② 会場を探しましょう

- 町内や近所で高齢者やボランティアが歩いていける範囲
- お金をかけず、誰でも気軽に利用できる場所  
(公民館、町内会館・自治会館、個人の自宅、団地の集会室、神社・寺院)

**\* 会場で配慮する点 \***

- ◆危険な段差がないか
- ◆必要な所に手すりがあるか
- ◆トイレは高齢者がつかいやすいか
- ◆急な階段がないか
- ◆照明は適当か

## ステップ ③ 参加を呼びかけましょう

### サロンのご案内

○△× 集会所にて  
毎週○曜日 ☆時～★時

- 活動日や活動時間や参加費の有無、担い手と参加者の役割分担を決める
- 案内を作成し、各戸に配布する

**\* 「サロン」対象者への呼びかけ \***

- ◆町内会の掲示板・回覧板で地域全体に知ってもらう
- ◆自宅を訪問し案内を手渡しする
- ◆無理強いしない
- ◆気軽に集まれる雰囲気づくり

## ステップ ④ プログラムは参加者が決めましょう



- 参加者がそれぞれの興味や関心に合わせて自由な考えでプログラムをつくる
- 参加者が楽しむことが大切
- 会食や健康増進のためのプログラムを取り入れる  
(血圧測定・健康相談・体操等)

## ステップ ⑤ こんなことに気をつけましょう

- 食中毒防止、衛生管理
- 参加者のプライバシー保護や守秘義務
- 緊急連絡先の管理方法
- ボランティア活動保険・サロン保険に加入（地元の社会福祉協議会が窓口）
- 「みんなが主役」を合言葉に参加者も持ち味を発揮する



## ステップ ⑥ 困ったときは相談しましょう

- 何か困ったことがあったら、自分たちだけで抱え込まずに、社会福祉協議会や関係機関に相談する



### 参加者の声

- ◆人と会って、話をするのが楽しみになった
- ◆出かけるのが、おっくうでなくなった
- ◆お互いの家を行き来するようになった
- ◆暮らしに、張り合いができた
- ◆健康に気をつけるようになった

### 担い手の声

- ◆担い手も参加者も区別なく持ち味を発揮している
- ◆気軽に社会福祉協議会へ相談できるようになった
- ◆みんなで楽しく過ごせた

発行●群馬県社会福祉協議会 群馬県民生委員児童委員協議会

〒371-8525 前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター内  
TEL027-255-6031 FAX027-255-6444

E-mail tiiki@g-shakyo.or.jp